

[4] 住吉区北部

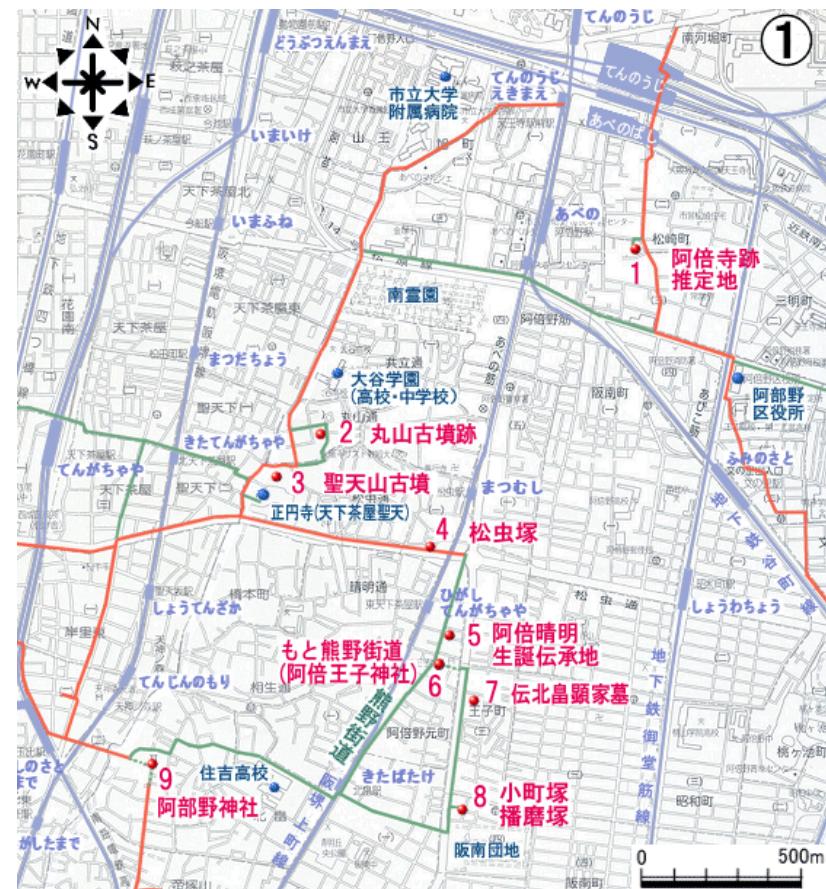
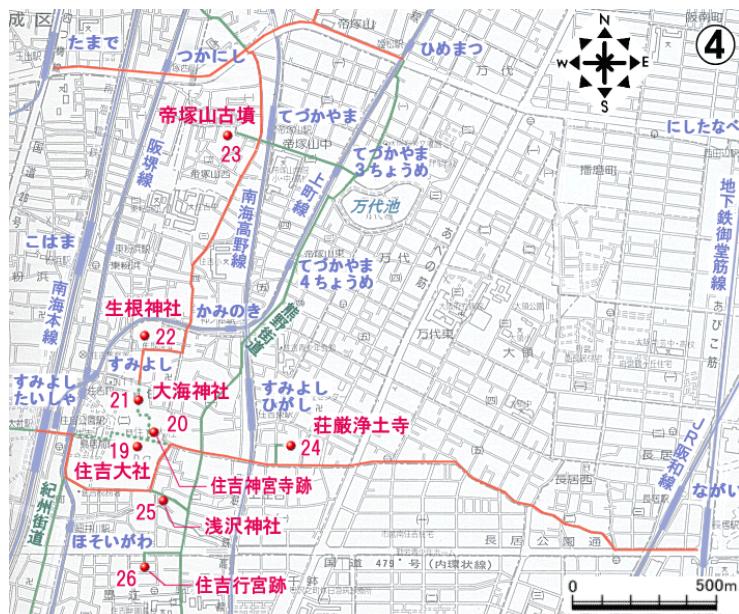
- 19 住吉大社（住吉区住吉二丁目9）
- 20 住吉神宮寺跡：神宮寺は神仏混淆の名残で、平安時代には有名神社のほとんどに設けられたといふ。住吉神宮寺は天平宝字2年（758）の創建と伝えられる。
(住吉区住吉二丁目9)
- 21 大海神社（住吉区住吉二丁目9）
- 22 生根神社＝奥の天神（住吉区住吉二丁目3）
- 23 帝塚山古墳：市内に残る最大級の前方後円墳で、墳丘長 約 120m、後円部の直径約 57m、高さ 約 10m、前方部の幅 約 50m の規模を持っている。被葬者は大伴金村と伝えられるが不詳である。
(住吉区帝塚山西二丁目8)
- 24 莊嚴浄土寺（住吉区帝塚山東五丁目11）
- 25 浅沢神社（住吉区上住吉二丁目11）
- 26 住吉行宮跡：南北朝時代、後村上天皇はたびたび住吉大社に行幸し、住吉大社神主津守氏の邸内にあった正院殿を行宮にした。（住吉区墨江二丁目7）



21 大海神社



26 住吉行宮跡



紀州街道

高麗橋を起点とする紀州街道は、堺筋を南下し、恵美須町付近から一つ西の筋に移ってさらに南下、住吉大社の西側を通って大和橋を渡り、堺そして和歌山に向かう。

市内の道筋は、ほぼ全線にわたり現在の道路と一致する。沿道は早くから市街化したこともあって、商店街を形成しているところが多い。



[2] 西成区

- 1 津守神社 (西成区津守三丁目4)
- 2 津守新田会所跡: 津守新田は京都の横井源左衛門・金屋源兵衛によって元禄11年(1698)に工事がはじめられ、3年かかりで72町部(約7.1km²)が干拓された。この会所の庭園は「向月庭」と呼ばれ、春日出新田会所の「ハヅ軒」とともに有名であった。
(西成区津守三丁目1、津守幼稚園正門内側)
- 3 阿倍寺塔刹柱礎石: 阿倍野区松崎町2丁目にあった「阿倍寺」の塔の礎石を移したもの。
(西成区岸里東一丁目、天下茶屋公園内)
- 4 佐藤魚丸墓所: 魚丸は江戸時代後期、寛政から文化年間に活躍した文人。滑稽本「川太郎一代斬」を出版したほか、淨瑠璃作家、狂歌師としても活躍した。(西成区岸里一丁目7、安養寺)
- 5 天下茶屋跡: この辺りは千利休の師である武野绍鶴が隠棲したところで、豊臣秀吉が住吉大社への参詣の際にここに立ち寄って茶の湯を楽しんだという。「天下茶屋」の名は、太閤殿以下の茶屋「殿下茶屋」がなまつものといわれる。(西成区岸里東二丁目10)
- 6 生根神社 (西成区玉出西二丁目1)



12 安倍寺塔刹柱礎石



[3] 住之江区

- 7 加賀屋新田会所跡: 延享2年(1745)加賀屋甚兵衛によって干拓された新田の会所で、小堀遠州流の築山林泉式庭園や数奇屋風の建物が現存し、「前園」と名づけられ大阪名園の一つとなっている。
(住之江区南加賀屋四丁目8-7)
- 8 霞松原: この付近は江戸時代中期までは海岸線であった。白砂青松の名勝の地で、万葉集にも歌われている。また松風が霞を吹きつけるように響いたところからこの名がある。
(住之江区安立二丁目11)
- 9 住吉高灯籠: 常夜灯と灯台の役割を併せ持つこの高灯籠は、住吉大社への献灯も兼ねて建立されたといわれている。創建年代は不詳であるが、江戸時代の名所図会などには必ず紹介されていた。元はここから西へ200mの十三間川のほとりにあったが、阪神高速道路の工事に伴い当地に移転した。(住之江区浜口西一丁目1)



12 住吉高灯籠

